【解　答】

炭酸ランタン沈着症

解説：

炭酸ランタンは高リン血症の治療薬として本邦で広く使用されており，特に維持透析患者においてリン吸着剤として有用である．消化管内でリンと結合することで吸収を抑制し，排泄を促進することで血中リン濃度の低下をもたらす．

炭酸ランタンは消化管からの吸収がごくわずかであり，吸収された成分も胆汁を介して便中に排泄されるため副作用の少ない薬剤と考えられてきた．しかし，2015年に炭酸ランタンが胃粘膜に沈着し粘膜病変を生じた症例が初めて報告され[1)~3)]，以降消化管と炭酸ランタンの関係に関心が集まっている．

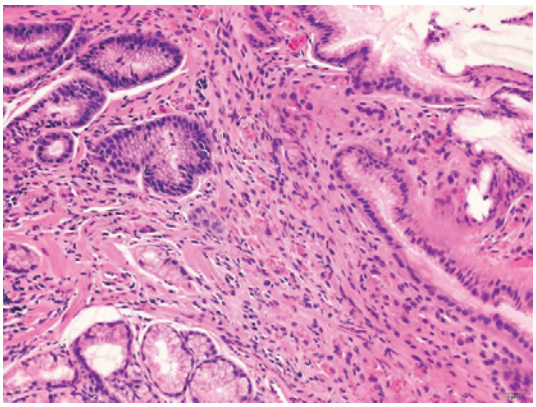

Figure 7.　HE染色×20：粘膜固有層に茶褐色の炭酸ランタンを貪食した組織球を認める．

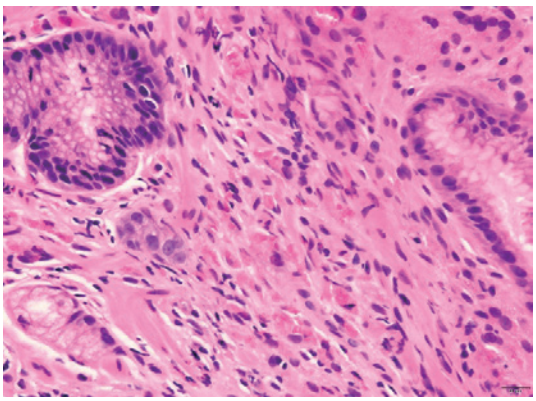

Figure 8.　HE染色×40.

沈着部位としては胃粘膜が最も多く報告されているが，十二指腸粘膜への沈着も報告されている．また粘膜への沈着は内服期間や累積投与量と関連する可能性が指摘されている[4)]．

1．内視鏡像の特徴

白色光観察：広範ないし斑状，環状に白色調の微細顆粒状粘膜を呈する．これは，組織球が炭酸ランタンを貪食し粘膜固有層に集簇するためと考えられている．

NBI観察：炭酸ランタンの沈着が窩間部の白色変化としてより明瞭になる．

2．病理組織像の特徴

炭酸ランタンの消化管粘膜内への沈着は粘膜固有層間質内の組織球の集簇像として認識される．

本症例では炭酸ランタン沈着症の典型的な内視鏡所見，病理所見がみられた．炭酸ランタン沈着症は内視鏡のみでの診断が困難なため，疑う内視鏡所見があれば内服歴の確認や生検の提出が望ましいと考えられる．

本論文内容に関連する著者の利益相反
：なし

文　献

1）Makino M, Kawaguchi K, Shimojo H, et al : Extensive lanthanum deposition in the gastric mucosa : the first histopathological report. Pathol Int 65 ; 33–37 : 2015
2）Tonooka A, Uda S, Tanaka H, et al : Possibility of lanthanum absorption in the stomach. Clin Kidney J 8 ; 572–575 : 2015
3）Haratake J, Yasunaga C, Ootani A, et al : Peculiar histiocytic lesions with massive lanthanum deposition in dialysis patients treated with lanthanum carbonate. Am J Surg Pathol 39 ; 767–771 : 2015
4）浪江　智，浜辺定徳，川冨正治，他：炭酸ランタン服用患者の胃粘膜へのランタン沈着の検討．日本透析医学会雑誌　48 ; 169–177 : 2015

論文受領，2025年8月4日
受理，2025年8月6日